

第 1 回昭島市総合基本計画審議会 議事要旨

＜日時＞ 令和 8 年 5 月 29 日（金）午後 6 時 30 分～

＜場所＞ 昭島市役所 2 階 204 会議室

＜出席者＞（敬称略）

【委員】

田中 啓之（会長／相模女子大学 副学長 人間社会学部地域クリエーション学科教授）、前田 耕司（副会長／早稲田大学教育・総合科学学術院名誉教授）、鈴木 実（昭島市農業委員会 会長）、高橋 靖和（昭島市自治会連合会 会長）、根本 幸雄（連合多摩中央地区協議会 事務局次長）、武藤 茂（昭島市商工会 事務局長）、荒井 康裕（東京都立大学 都市環境学部都市基盤環境学科准教授）、出雲 明子（明治大学公共政策大学院 専任教授）、大田 眞也（昭島市医師会 常任理事）、舩原 邦明（前昭島市都市計画審議会 会長）、松本 祐一（多摩大学 経営情報学部事業構想学科総合研究所教授）、小川 比左江（公募市民）、細田 悟（公募市民）、牧野 愛子（公募市民）

【事務局】

臼井 伸介（市長）、池谷 啓史（企画部長）、渡邊 麻衣（政策調整担当課長）、村山 純（企画政策課長）、藤岡 真希（企画調整担当係長）、板谷 麻理子（企画政策係主任）

【傍聴者】 1 名

＜欠席者＞（敬称略）

氏井 初枝（昭島市教育委員会 委員）、安倍 弘行（昭島市社会福祉協議会 事務局長）、寺澤 瞳（昭島六団体連絡協議会 財務理事）、堀井 真理子（昭島観光まちづくり協会 事務局長）

＜配付資料＞

日程、資料 1：委員名簿、資料 2：後期計画策定について・別紙（策定スケジュール）、資料 3：政策指標取組状況、資料 4：前期計画施策体系別事業評価、資料 5：第 1 章基本計画の前提・別紙（変更の概要）、資料 6：人口推計

＜議事要旨＞

1 開会

2 市長挨拶

臼井市長：

昭島市総合基本計画（令和 4～13 年度）は、基本構想と基本計画（前期計画 令和 4～8 年度）で構成され、基本計画（前期計画）が今年度末に期間満了と

なる。これを受け、令和 9～13 年度の基本計画（後期計画）の策定を、委員の意見を聞きながら進めていきたい。

前期 5 年間の主要課題として、地域力・地域の担い手のあり方が挙げられたが、自治会加入率は厳しい状況にある。災害時における行政と地域の協力体制は重要性が増している。人口は現在 11 万 6,348 人で 10 年前比約 3 %増。昭島駅北口周辺や市の東部地域などの大規模な開発により増加傾向にある。後期の 5 年間は 10 年・20 年・30 年先を見据えたまちづくりの重要な過渡期と認識しており、長期的な視野での計画の検討をお願いしたい。

3 委嘱状の交付

市長より委嘱状を交付した。各委員および事務局の自己紹介を行った。

4 議題会長・副会長の選出

委員互選により学識委員の田中委員を会長、前田委員を副会長に選出。正副会長より挨拶。

5 基本計画の諮問

基本計画（後期：令和 9 年度～13 年度）について市長から会長へ諮問した。

6 その他

（1）今後の進め方（資料 2・別紙）

事務局より説明。質疑・意見なし。

（2）計画の前提となる事項について・施策の体系（第 5 章）の審議の進め方（資料 3～6）

前田副会長：

後期計画の検討に際し、以下の事項を盛り込むよう要望した。

- 改正障害者差別解消法に基づく合理的配慮
- 災害時支援体制における行政の役割の明確化、在留外国人向け防災情報の多言語発信およびハラル食料備蓄
- 地域の担い手の育成・再構築（市民大学構想、自治会の電子化等）
- SDGs（2030 年目標）達成後を見据えたウェルビーイングの視点

政策調整担当課長：

事業内容・取組方針については第 2・3 回審議会で提示予定。

高橋委員：

日頃の近所付き合いが防災・防犯の根本。デジタルデバインドへの配慮が必要であり、長期的な視点でデジタル化を進めるべき。「自分たちの身は自分たちで守る」市民意識の醸成と、困ったときに助け合えるまちづくりを計画に盛り込んでほしい。

政策調整担当課長：

自助・共助・公助については資料5に反映している。デジタルデバインドについては当面デジタルと他媒体の併用方針。詳細は第5章の審議事項。

前田副会長：

市民大学構想は、地域コミュニティの基盤を支える社会教育人材の育成については、中央教育審議会生涯学習分科会でも議論されている。リバースマンター（大学生が高齢者にデジタルを教える取組）もデジタルデバインド対策として参考になる。

松本委員：

後期計画を審議するにあたり、前半5年間の総括が不十分。市民が「昭島は良くなったのか」を判断できるよう、前期の成果と課題を後期計画に明確に盛り込むべき。細部の議論の前に全体の総括が必要。

政策調整担当課長：

施策ごとの未達成部分の抽出に加え、全体総括の方法を検討する。

舩原委員：

計画概要版の作成を求めるとともに、成果が芳しくない施策（コミュニティ関連等）についても率直に記載すべき。市民が自分事として理解できる指標が必要。

政策調整担当課長：

具体的施策の方向性の記載や、地域の変化を踏まえた視点の反映を検討する。

田中会長：

①前期計画の振り返り・サマリーの追加、②具体的課題の施策体系内での審議について、事務局で検討されたい。

荒井委員：

指標の数値を単純に良否判断するのではなく、数値の背景（例：水道水直接飲用率低下は価値観の多様化やライフスタイルの変化、自治会加入率低下は新旧住民の差異等が要因の可能性）を分析し、戦略的なターゲット設定に活かすべき。

政策調整担当課長：

指標の要因分析を主管部課で進めており、第2・3回審議会で報告予定。指

標の継続・入替についても検討中。

細田委員：

人口増加・開発による環境変化の中で、深層地下水 100%水道水の供給が今後も守られるか市民は心配している。後期計画でも明確に示してほしい。

根本委員：

市民意識調査（2年に1回・無作為抽出約2,000通）の調査結果を確認。

田中会長：

子どもアンケートや若者向けワークショップの結果を、審議会でどう活かすか。

政策調整担当課長：

「ふるさと昭島」として愛されるまちづくりの推進という基本施策をはじめ、あらゆる施策に活用予定。

武藤委員：

今後の審議範囲（施策体系第5章が主眼か）を確認。

政策調整担当課長：

基本構想は変更なし。後期計画では今後5年間の取組内容を検討。第2～4章は外部組織での審議結果を第4回で報告予定。この審議会の重点は第5章。

（3）審議会のルール・日程

- 本会議は原則公開（個人情報等を含む場合は議決により非公開可）。
- 議事要旨を作成し、委員確認後ホームページで公開。
- 次回：第2回審議会 6月24日（水）午後6時30分 市役所1階市民ホール

7 閉会